

第69回(2025年度) 北海道開発技術研究発表会論文

# 後志地域における「みち学習」の協働的実践

## —小中学校における授業実践と今後の展望—

小樽開発建設部	道路計画課	○坂部 知恵
小樽開発建設部	道路計画課	阪口 学爾
一般社団法人北海道開発技術センター		橋本 澄奈

「みち学習」は、北海道総合開発計画(第8期・第9期)に位置づけられた「ほっかいどう学」の理念に基づく教育実践の一環である。後志地域では令和3年度より、教育機関、認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム、当部等が連携・協働し「後志みち学習プロジェクト」を展開している。本稿では、小中学校におけるトライアル授業の実施や教材作成等の取組成果を報告するとともに、今後の展望について考察する。

キーワード: ほっかいどう学、後志みち学習、地域づくり

### 1. はじめに

北海道総合開発計画(第8期・第9期)では、人口減少が進む中で地域の将来を担う人材の育成が重要視されている<sup>1)</sup>。その柱の一つとして位置づけられている「ほっかいどう学」は、北海道の地理・歴史・文化・産業などの魅力や特性を幅広く学び、子どもから大人まで地域づくりへの関心を高める契機を創出することを目的とした取組である<sup>1)</sup>。第8期計画では、地域に関する理解と愛着を深め、自ら考え地域づくりに取り組む地域の担い手の育成・確保が示され、第9期計画においても、こうした趣旨を踏まえた若い世代の育成が引き続き重視されている<sup>1),2)</sup>。北海道開発局は関係機関と連携し、地域の歴史や産業、社会基盤に関する教材・情報の提供を通じて「ほっかいどう学」の展開に取り組んでいる<sup>3)</sup>。本稿で扱う「みち学習」は、この趣旨を踏まえ、道路や交通を切りとした地域学習として位置付けられる。

小樽開発建設部管内(後志地域)では、令和3年度より、教育機関、認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム、小樽開発建設部、一般社団法人北海道開発技術センター等が協働し、「後志みち学習プロジェクト」を展開している。本稿では、今年度で5年目を迎えた本プロジェクトの概要と成果を報告するとともに、今後の展望について述べる。

### 2. 「後志みち学習プロジェクト」の目的

「後志みち学習プロジェクト」は、第8期北海道総合開発計画で掲げられた「北海道の価値を生み出す北海道型地域の維持」の趣旨を踏まえた取組である。地域特性を活かした持続可能な社会を確保するためには、子どもたちが郷土への理解と愛着を深めることが重要である。しかし、学校現場の教員が地域の特性を十分に理解し、教育活動に反

映させるための教材や指導案が整備されていないことが課題となっている。この課題を解決するため、本プロジェクトでは、①検討会の設置、②教材作成、③トライアル授業の実践等を進めており、令和7年12月現在、表-1に示すとおり、後志地域の小学校及び中学校の校長・教頭・教諭が参画し、地域や担当学年に関わらず全員で各種検討を行っている。

表-1 令和7年度の実施体制

区分	所属	所属歴
座長	認定NPO法人 ほっかいどう学推進フォーラム 理事長	5年目
検討委員	小樽市立向陽中学校 校長	5年目
	小樽市立潮見台中学校 校長	1年目
	小樽市立潮見台小学校 教頭	5年目
	小樽市立潮見台花園小学校 主幹教諭	5年目
	小樽市立松ヶ枝中学校 教諭	3年目
	余市町立東中学校 教諭	5年目
	蘭越町立蘭越小学校 教諭	2年目
オブザーバー	北海道教育庁後志教育局 教育支援課長	5年目
主催者	小樽開発建設部 道路計画課	—
	小樽開発建設部 地域連携課	—
事務局	認定NPO法人 ほっかいどう学推進フォーラム	—
	一般社団法人北海道開発技術センター	—

### 3. これまでの取組状況

「後志みち学習プロジェクト」は、令和3年度以降、地域学習の展開可能性を検討する準備段階から実行段階へと移行し、関係者間の協働のもと段階的に遂行された。以降、各年度において以下の(1)～(3)の取組を柱として継続的に実施している。さらに、令和7年度には、(4)のとおり他管内への学習機会の提供も行い、後志地域に関する教材が広域的に活用される可能性を示した。以下にその概要を示す。

#### (1) 「後志みち学習検討会」の開催

「後志みち学習プロジェクト」のキックオフとして、令和3年12月に「第1回後志みち学習検討会」を開催した(写真-1)。本検討会では、「みち」という連続性のある題材を通じて、人々の想いや地域の歴史的背景、未来を考える視点を学ぶことが、学習指導要領に記載している「社会に開かれた教育課程」に寄与し、教育側と行政側の双方にとって相互に価値を創出する可能性があることを確認した。また、道路整備と、地域の発展の歴史・物流・観光客数・鉱山開発との関係が、小学校では、社会科、中学校では、地理分野(防災等)や公民分野での授業展開が可能であるとの意見が挙がった。さらに、学校現場における人材育成の観点から、教員の担当教科や個々の経験に左右されず、授業を展開できる教材を整備することが重要であると意見が挙がった。これらを踏まえ、後志地域の歴史や産業と「みち」を結び付けて学べる素材の収集に着手し、教材候補の具体化を進めることとなった。



写真-1 令和3年度「第1回後志みち学習検討会」の様子

#### (2) 教材候補の素材収集

教材候補の素材収集を行うにあたり、まず、「みち学習」がどのように位置づけられるか把握するため、学習指導要領(平成29年告示)と、それに基づく教科書の記述を整理した。地理・歴史・公民の各単元において社会的課題の把握や社会の発展に関わる学習、人口減少、地域活性化、国土保全、防災などの内容が取り上げられており、これらは、「みち学習」と結び付けやすいことが明らかになった。次に、教科書の補助教材として各市町村教育委員会が作成している副読本(当部管内20市町村中10市町村)について、「みち学習」との関連性を検討した(表-2)。副読本については、現行の学習指導要領に対応していたものが7市町村であり、記述内容にはらつきがあったものの、道路と防災、観光といった地域性の高い題材が一定程度含まれていた(令和5年2

月時点)。これらの結果から、当部管内において「みち学習」を展開する基盤が整っていることが示唆された。表-2の結果を踏まえ、教材作成およびトライアル授業実践に向けた検討を行うため、各年度において、有識者へのヒアリングや素材収集等を行った(表-3)。

表-2 新学習指導要領・副読本と「みち学習」の関連性

##### 【新学習指導要領と「みち学習」の関連性】

- ・新学習指導要領により、「みち学習」を展開しやすい環境が整っている。

##### 【副読本と「みち学習」の関連性】

- ・後志地域の副読本では、「みち学習」と関連する記述が約3～5割弱見られ、他地域より高い傾向がある。
- ・全ての単元において、「みち学習」との関連が確認できる。
- ・道路と防災(除雪等)、道路と景観・観光(北海道新幹線、シニックバイウェイなど)を組み合わせた、地域の特色を生かした学習を展開できる可能性がある。
- ・副読本において記述の乏しい内容(例:道路の役割、無電柱化)についても、社会科の発展的学習や、総合的な学習の時間において「みち学習」の題材となる可能性がある。

#### (3) 教材作成およびトライアル授業の実践

教材作成あたり、まず道路事業に関する資料や関連文献を収集した。さらに、道路整備の専門知識を有する有識者へのヒアリングを実施し、これらの素材を基盤として、道路整備が地域の経済・社会発展に及ぼす影響を具体的な事例とともに示し、児童がその重要性を理解できる構成とした教材を作成した。各年度におけるトライアル授業の実践において使用・作成した教材を表-3および表-4、作成した教材の一部を図-2および図-3に示す。次に、作成した教材を、当部管内の小中学校と連携し、自然災害と復旧・防災インフラを扱う地理分野の授業や小樽の発展と交通の関係性を扱う歴史分野の授業など、各単元において活用し、「みち学習」に関する授業の一般化に向けたトライアル授業を計9回実施した(写真-2、表-4)。



図-2 小樽市街地の交通とまちの広がりに関する地図教材

表-3 教材作成およびトライアル授業実践に向けた内容(令和3~7年度)

年度	実施区分	実施内容	活用先・位置付け	主な参画者 ※所属・肩書きは実践時時点
令和3年度	人的ネットワーク構築	◆「後志インフラ文学展オンライン座談会」への参画 (令和4年2月/オンライン開催+後日配信) [概要]右記登壇者による、本プロジェクトの趣旨や地域学習への応用可能性に関する意見交換	後志みち学習の展開可能性の検討	[聴講者]約60名 [登壇者]市立小樽文学館 館長、後志みち学習 座長・検討委員2名・主催者1名・事務局1名
令和4年度	教材候補収集・検討	◆「ほっかくいどう学インフラツアーハ後志編」への参画 (令和4年8月/新稻穂トンネル共和工区工事現場他) [概要]後志地域における道路や社会基盤の成り立ちを現地で学ぶ機会	新規教材・授業内容の検討	[参加者]29名(うち、後志みち学習検討委員は3名参加)
	教材開発	◆動画クリップ教材(試行版)の作成 (令和4年8月～令和5年2月) [対象]小学校低学年(1～3学年) [題材]雪崩防止柵、防雪柵、砂箱、固定式誘導柱 [構成]小学校教諭(検討委員)からの質問に対し、道路管理者(小樽開発建設部)が回答(90～180秒程度)	新規教材の作成	[実践者]後志みち学習 検討委員1名・主催者・事務局
令和5年度	素材収集	◆授業実施に向けた素材収集 (令和5年11～12月) [収集資料]下記①～⑤に関する資料(①北海道が広いことに伴う交通面での工夫、②北海道の寒冷な気候を踏まえた交通面での工夫、③北海道の交通が農業に果たす役割、④北海道の交通が観光に果たす役割、⑤北海道の交通を生かした3泊4日の「北海道ツアーアイ」を企画するにあたり活用可能な情報) [作成教材]北海道の観光業・倶知安余市道路説明資料	教材作成・授業内容の検討(表4_No.6)	[対応者]後志みち学習 主催者・事務局
	専門家連携・素材収集	◆授業実施に向けた有識者へのヒアリング・素材収集 (令和5年11月/小樽市総合博物館本館) [収集資料]小樽運河に関する説明資料、明治8年から昭和6年の小樽の古地図データ、小樽の学校に関する盛衰記・観光客入込数・港湾統計 他 [作成教材]小樽市街地の交通とまちの広がりに関する地図教材	教材作成・授業内容の検討(表4_No.7)	[対応者]小樽市総合博物館 館長、後志みち学習 主催者3名・事務局1名
令和6年度	専門家連携・素材収集	◆授業実施に向けた有識者へのヒアリング・素材収集 (令和7年1月/小樽市総合博物館運河館) [ヒアリング内容]小樽の交通発展に関する基礎的知見(小樽港の物流特性、幌内炭鉱を契機とした鉄道敷設の背景、大正期における鉄道と道路の配置、札樽間輸送の役割 他) [作成教材]「北海道の心臓」と呼ばれた小樽と交通インフラ	教材作成・授業内容の検討(表4_No.8)	[対応者]小樽市総合博物館 館長、後志みち学習 検討委員2名・主催者2名・事務局1名
令和7年度	専門家連携・素材収集	◆授業実施に向けた有識者へのヒアリング・素材収集 (令和7年12月/小樽市総合博物館運河館) [ヒアリング内容]小樽の交通発展に関する基礎的知見(小樽港が北海道各地の物資を集積し本州へ輸送する拠点として機能していたこと、幌内炭鉱の開発を契機に鉄道と港湾が一体的に整備されたこと 他) [作成教材]小樽港の移出入に関する教材	教材作成・授業内容の検討(表4_No.9)	[対応者]小樽市総合博物館 館長、後志みち学習 検討委員2名・事務局2名

表-4 トライアル授業の実践内容(令和4~7年度)

年度	No.	実施日	実施校	学年・科目	授業内容	主な使用教材
令和4年度	1	令和4年 8月30日(火)	喜茂別町立 喜茂別中学校	中学3年 社会(公民)	新しい人権 ～環境アセスメント～	・高度経済成長期の年表 ・環境アセスメントと道路計画 ・トンネルあれこれ
	2	令和4年 10月7日(金)	喜茂別町立 喜茂別中学校	中学1年 技術	構造を強くするには	・あなたのCivil Engineer Sense (土木・構造 解説資料)
	3	令和4年 12月2日(金)	小樽市立 朝里中学校	中学3年 社会(公民)	財政が果たす三つの役割	・俱知安余市道路 説明資料
	4	令和4年 12月2日(金)	小樽市立 朝里中学校	中学2年 社会(地理)	災害から身を守るために (防災から減災へ)	・身近な地域で起きた自然災害 ・災害による被害と復興 ・暮らしを守るインフラの整備
	5	令和5年 1月27日(金)	小樽市立 花園小学校	小学3年 社会	わたしたちの市の歩み ～市のうつりかわり～ ※小樽市社会科教育研究会へのサポート	・小樽の昭和と令和の地図資料
令和5年度	6	令和5年 12月15日(金)	余市町立 東中学校	中学2年 社会(地理)	日本の諸地域 北海道地方 ～自然の特色を活かした産業～	・北海道の観光業 説明資料 ・俱知安余市道路説明資料
	7	令和6年 1月24日(水)	小樽市立 花園小学校	小学3年 社会	わたしたちの市のあゆみ ～小樽市のうつりかわり～	・小樽市街地の交通とまちの広がりに関する地図教材(図-2)
令和6年度	8	令和7年 1月20日(月)	小樽市立 松ヶ枝中学校	中学2年 社会(歴史)	明治維新と立憲国家への歩み ～小樽の発展と交通～	・「北海道の心臓」と呼ばれた小樽と交通インフラ
令和7年度	9	令和7年 12月19日(金)	小樽市立 花園小学校	小学6年 社会	近代国家をめざして ～暮らしと社会の変化～	・小樽港の移出入に関する教材(図-3)

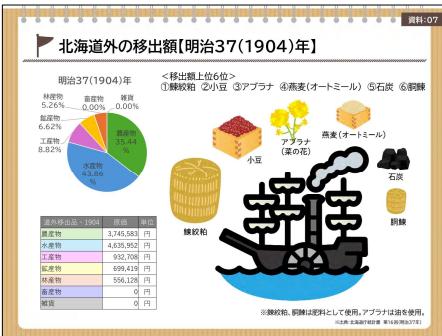


図-3 小樽港の移出入に関する教材

写真-2 令和7年度「トライアル授業」の様子

#### (4) 他管内への後志地域に関する学習機会の提供

今年度(令和7年度)は、新たな取組として、他地域の学習活動に協力し、後志地域に関する学習機会を提供した。函館開発建設部管内で展開されている「渡島檜山みち学習プロジェクト」のうち、厚沢部町立厚沢部中学校では、他地域を知ることを通じて厚沢部町の魅力を再発見すること目的とした学習が令和7年度に進められている。本学習の一環として、「小樽が豊かになった理由」をテーマに、小樽のみち(道路)やインフラ、海(港)と道路との関係性、さらにそれらを基盤として発展した建築物等について、生徒が1人2分間のプレゼンテーションを行う学習活動が設定された。

そこで、小樽・後志地域への理解を深める機会として、オンラインによる出前授業を実施した(写真-3)。当日の説明資料には、令和6年度に作成した教材の一部を活用し、当部の職員が授業を担当した。これにより、これまでの検討会・素材収集・トライアル授業を通じて蓄積してきた教材が、他管内の児童・生徒が後志地域の歴史や交通インフラを学ぶ機会においても有効であることが示された。授業を受けた生徒からは、小樽港の働きや道路・鉄道整備の歴史への関心が高まったとの声が多く寄せられた。また、港湾と交通のつながりや、小樽が札幌より栄えていた時期があったことを知ったとの意見も挙がり、小樽の発展に関する理解が深まつたことが示された。



写真-3 オンライン出前授業の様子

#### 4. 成果

本プロジェクトでは、令和3年度から令和7年度までの5年間にわたり、小樽を中心とした後志地域の歴史学習が一つの軸として形成され、小中学校での教材の蓄積が進んだ。

教材は、小樽市総合博物館などの専門家と連携し、歴史・交通・港湾に関する資料や知見を反映しており、生徒の理解を深めるだけでなく、教員の教材研究や知識の蓄積にも寄与した。

また、計9回のトライアル授業を小中学校で実施したことにより、教材は学年や単元を越えて活用できる汎用性を高め、教員間の指導差や生徒の理解差による学習のばらつきが抑えられ、教員の指導力向上にもつながった。

#### 5. 今後の展望

これまでの取組は小樽市内での実践を中心に展開してきたが、今後は後志地域全体への波及が求められる。今後は、認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラムが運営するプ

ラットフォーム「なるほどう！北海道！」を活用し、教材の掲載・共有を進め、広域的にアクセス可能な仕組みを整えていく。また、教材に付随する短尺動画やデジタル副読本を充実させ、子どもたちが授業内外で自主的に学べる環境を整えていく。

そして、これらの成果を2030年度に予定されている学習指導要領改訂と新教科書の導入に合わせ、副読本として位置付けられることを目指す。

地域の道路などの社会基盤を題材に、地域の歴史や産業と結び付けて学ぶことは、子どもたちが地域の価値を再発見し、地域づくりへの関心を高める契機となると考えられる。この学びを広げるため、今後も教育機関、専門家、行政が協働して学習資源を提供する取組を継続し、地域を支える若い世代の育成につなげていきたい。

#### 6. 謝辞

本稿は、教育機関、認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム、小樽開発建設部、一般社団法人北海道開発技術センター等が連携・協働して進めた取組を取りまとめたものである。これまで本プロジェクトに参画し、授業実践にご協力をいただいた教諭の皆様、並びに助言をいただいた関係者の皆様に、ここに記して深く感謝の意を表する。

#### 参考文献

- 1)国土交通省:北海道総合開発計画, 2016.3
- 2)国土交通省:第9期北海道総合開発計画, 2024.3
- 3)北海道開発局:ほっかいどう学. <https://www.hkd.mlit.go.jp/kyuki/keikaku/splaat000000ozs0.html>
- 4)小樽市:令和7年度【上期】小樽市観光入込客数の概要. <https://www.city.otaru.lg.jp/docs/2020101000127/#4>